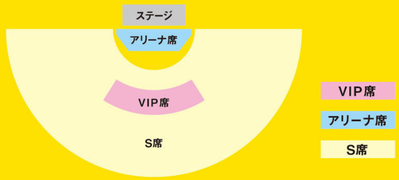
## 料金（全席指定・税込）

○VIP席：100,000円　※VIP席はフジテレビダイレクト・チケットぴあ・河口湖ステラシアターにて販売。

特典内容
- 会場内で最も音響に優れたお席の確約（本公演ではPA機器を使用いたしません）
- VIP専用シート（クッション性の高い座椅子）
- VIP専用入場口
- VIPラウンジ（ドリンクをご用意）
- 公式プログラム
- ヴァルトビューネ日本初開催記念オリジナル切手（非売品）




○アリーナ席：50,000円

特典内容
- ステージに最も近いエリアの確約
- アリーナ専用シート（背もたれ付きの椅子）

○S席：45,000円

## チケット販売窓口

**WEB販売**　★…座席選択可

フジテレビダイレクト★・・ https://fujitvdirect.jp/
チケットぴあ★・・・・・・・ https://w.pia.jp/t/berlin-phil2025/
（Pコード：286-330）
ローソンチケット★・・・・ https://l-tike.com/berlin-phil2025/
（Lコード：35942）
イープラス・・・・・・・・・・ https://eplus.jp/berlin-phil2025/
楽天チケット★・・・・・・・ https://r-t.jp/berlin-phil2025

**電話窓口**

河口湖ステラシアター・・ 0555-72-5588
（10:00～16:00 火曜日および祝日の翌日除く）
山日YBS事業局・・・・・ 055-231-3121（9:00～17:00 土日祝除く）
※販売初日は特別電話055-231-3600のみ受付
イーストン・・・・・・・・・・ 055-931-8999（11:00～18:00土日祝除く）

**店頭販売**

河口湖ステラシアター・・ 0555-72-5588（10:00～16:00火曜・祝翌日休館）
※販売初日は電話予約のみ受付
河口湖ショッピング・・・・ 0555-73-4500（10:00～18:00）
センターBELL
内藤楽器富士吉田店・・ 0555-23-6955（火曜～金曜14:00～18:00、
（富士吉田市）　土曜10:00～18:00、月曜・日曜・祝日休）
山日YBS本社受付・・・ （平日10:00～17:20、土曜10:00～17:00、日曜・祝日休）
（甲府市）　※販売初日は特別電話055-231-3600のみ受付
内藤楽器本店・・・・・・・ 0552-35-7110
（甲府市）　（10:30～19:00、日祝10:30～18:00、月曜休）

## 問い合わせ先

クラシック事務局 0570-012-666（平日12:00～17:00）

公式サイト　https://www.fujitv.co.jp/berlin-phil/

公式サイト

**＜コンサートチケット券面表示特典＞**

公演チケット提示で、富士急ハイランドや富士観光開発各レジャー施設、河口湖音楽と森の美術館などでおトクなサービスが受けられます。詳しくは河口湖ステラシアターHPにて。

## 注意事項

※車椅子をご使用のお客様は2025年1月20日（月）以降にクラシック事務局までお問合せください。
※一度お求めいただきましたチケットは、公演中止の場合を除き、キャンセルをお受けすることが出来ません。また、病気やその他都合により、出演者、曲目、曲順が変更になる場合も、払い戻しは承りません。
※未就学児のご同伴やご入場、お子様を膝の上にお乗せになりながらの鑑賞はご遠慮ください。
※開演時間に遅れますと休憩まで所定の場所にてお待ち頂くか場内指定位置でのお立ち見のご案内となります。
※ご自席（膝上）に収まらない大きなお荷物の持ち込みはご遠慮ください。
※開演前及び休憩中は客席内でも飲食は可能です。
※飲食物の持ち込みは可能ですが、匂いの強い飲食物のお持ち込み、および演奏中の客席内での飲食はご遠慮ください。
※ビン、カンの持ち込み及びその他転倒により大きな音を発する恐れのあるものの持ち込みはお断りいたします。
※河口湖は天候や気温等著しく変化する場合がございます。上着などのご用意は各自でお願いいたします。
※河口湖ステラシアターは開閉式の可動式屋根となり、公演は屋根を開いた状態で実施いたします。ただし、天候次第で天井屋根の開閉状況は変わります。なお、ステージ背面の壁は天候に関わらず、閉じた状態で公演を実施いたしますので、あらかじめご了承ください。

## アクセス

**電車**　JR中央線で〈JR大月駅〉にて富士急行線に乗換、〈富士急行線大月駅〉から特急で約40分、〈河口湖駅〉下車。シャトルバス利用または、駅前からタクシー約5分

ヴァルトビューネ河口湖特別列車運行決定！　※詳細は公式サイトにて随時ご案内いたします。

**車**

中央自動車道〈河口湖IC〉より通常5分（八王子より約50分）
東富士五湖道路〈富士吉田IC〉より通常3分（御殿場より約25分）

**駐車場**

ステラシアター隣接駐車場が無料開放となりますが台数に限りがございますので公共交通機関でのご来場をお勧めいたします。駐車場をご利用のお客様につきましては、会場から離れた駐車場をご案内する場合がございます。なお、周辺道路の混雑も予想されますので、時間に余裕をもったご来場をお願いいたします。場外駐車場情報については公式サイトで随時ご案内いたします。

**オフィシャルツアー**

新宿駅・新横浜駅・静岡駅・三島駅から会場までの便利な直行バスプランや、宿泊プランをご用意！
鑑賞チケット（S席）付きのセットプランもございます。
※詳しくは富士急トラベルHPにてご確認ください。

富士急トラベル　イベントツアー　検索
https://www.fujikyu-travel.co.jp/free2/special/berlin-phil.html

**チケット一般発売　2025年1月18日（土）10:00～**

龍角散ダイレクト®
たん、せき、のどの炎症による声がれ・のどの不快感

龍角散ダイレクト スティック ミント（16包入り）　第3類医薬品
龍角散ダイレクト スティック ピーチ（16包入り）　第3類医薬品

株式会社 龍角散 東京都千代田区東神田2-5-12
お客様相談室 03-3866-1326（土・日・祝日を除く）　https://www.ryukakusan.co.jp/
※服用の際は説明文書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
※「龍角散」「龍角散ダイレクト」「ゴボン！といえば龍角散」は（株）龍角散の登録商標です。


龍角散 Ryukakusan presents

# ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 ヴァルトビューネ河口湖2025

2025
## 7/5（土）、6（日）河口湖ステラシアター
17:30開演　15:00開演　野外音楽堂・可動式屋根付

ドイツ国外《世界初》最高峰 オーケストラ ベルリン・フィルによる野外コンサート

WALDBÜHNE KAWAGUCHIKO
## ヴァルトビューネ日本開催！

指揮／グスターボ・ドゥダメル

主催・招聘・制作：フジテレビジョン　共催：河口湖ステラシアター　特別協賛：龍角散　協賛：大和証券グループ

https://www.fujitv.co.jp/berlin-phil/　ヴァルトビューネ　河口湖　検索

チケット先行販売　12月14日（土）～
チケット一般販売　2025年1月18日（土）～

詳細は公式サイトをご参照ください。

# 世界最高峰オーケストラ ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団による野外コンサート「ヴァルトビューネ」2025年7月、ドイツ以外で世界初となる日本開催決定!

©Stephan Rabold

## ヴァルトビューネとは

ドイツ語で「森の舞台」を意味するヴァルトビューネは、1936年ベルリン・オリンピック会場としてベルリン郊外に建設されました。古代ギリシャ円形劇場をモデルとした約20,000人収容の会場は、第二次世界大戦後「ヴァルトビューネ」と名づけられ、映画の撮影やスポーツ会場として活用。1982年には象徴的なテントをデザインした屋根が舞台上に設置され、毎年夏にクラシック、ロック、ポップスなど様々なジャンルによる音楽コンサートを開催する美しき野外音楽堂として世界から脚光を浴びるようになりました。

ベルリン・フィルのヴァルトビューネ初公演は1984年。以来、ベルリン・フィルのシーズン最後を飾る夏の恒例コンサート「ヴァルトビューネ野外コンサート」として40年の歴史を刻み、数々の名演を残してきました。「ピクニックコンサート」とも称される解放感溢れるクラシックコンサートは、ベルリンの風物詩として毎年人々に親しまれています。

〈演奏曲目〉

♪ガブリエラ・オルティス：Kauyumari（カモシカ）
♪アルトゥーロ・マルケス：Danzón No.8（ダンソン第8番）
♪アントニオ・エステベス：Mediodía en el llano（平原の真昼）
♪エヴェンシオ・カステリャーノス：Santa Cruz de Pacairigua（パカイリグアの聖なる十字架）
♪アンジェリカ・ネグロン：Me he perdido（迷える自分）
♪ロベルト・シエラ：Alegría（アレグリア）
♪レナード・バーンスタイン：『ウエスト・サイド・ストーリー』より「シンフォニックダンス」

※曲目曲順は変更になる可能性があります。

### ＜ベルリン・フィルより日本の皆様へ── 今回のプログラムについて＞

今回のテーマである南米の音楽は、強さ、リズム、高揚感において紛れもないものです。そして、そこはベネズエラ生まれの指揮者グスターボ・ドゥダメルのホームグラウンドでもあります。彼は今回のベルリン・フィルとの共演で、このレパートリーが持つ感染力のある勢いと、晴れ晴れとした楽観主義を皆様に披露します。

ドゥダメルのベルリン・フィル・デビューは2008年のヴァルトビューネ野外コンサートでした。以来、ほぼ毎年フィルハーモニー（ベルリン・フィル本拠地）に戻って来ており、今回のコンサートでは、10年半前にベルリン・フィルとの特別な関係が始まった際のテーマ「Los ritmos de la noche（夜のリズム）」の音楽に回帰します。

今回のハイライトは、北米と南米の音が見事に共存したレナード・バーンスタイン作曲による『ウエスト・サイド・ストーリー』からの「シンフォニックダンス」です。それはロサンゼルス・フィルハーモニックの音楽・芸術監督として世界的な名声を得ている南米出身の指揮者グスターボ・ドゥダメルの芸術的な経歴を完璧に反映しています。そして、プログラム全体に今回のテーマが溢れんばかりに盛り込まれ、この上なくエネルギッシュな音楽が揃っています。ぜひお楽しみください！

©Stephan Rabold

©Stephan Rabold

**ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団**（管弦楽）
Berliner Philharmoniker, orchestra

1882年に自主運営楽団として創立。ビューロー、ニキシュ、フルトヴェングラー、カラヤン、アバド、ラトルらが首席指揮者を歴任し、2019年ペトレンコが同職に就任。「デジタル・コンサート・ホール」ではライブや収録演奏を世界中に配信しているほか、2014年には自主レーベル「ベルリン・フィル・レコーディングス」も創設。2022年よりベルリン・フィルとペトレンコはUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）のパートナーであるUNO-Flüchtlingshilfe（ドイツ国連難民援助財団）のアンバサダーを務めている。

©Stephan Rabold

**グスターボ・ドゥダメル**（指 揮）
Gustavo Dudamel, conductor

グスターボ・ドゥダメルは、音楽を通じたより良い世界の実現に尽力を惜しまない。芸術の力が人生を鼓舞し変えていくという揺るぎない信念に導かれ、世界中の恵まれない地域への教育活動や、クラシック音楽の影響を新たな、今以上に多くの聴衆に伝えるべくたゆまぬ努力を続けてきた。現在、ロサンゼルス・フィルハーモニックとベネズエラのシモン・ボリバル交響楽団の音楽・芸術監督を務め、2026年にはニューヨーク・フィルハーモニックの音楽・芸術監督に就任し、マーラー、トスカニーニ、バーンスタインらのレガシーを引き継いでゆく。

## ヴァルトビューネ・コンサートの魅力

中村真人（音楽ジャーナリスト／ベルリン在住）

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団がシーズンの最後にヴァルトビューネで行う野外コンサートは、日本でも毎年のようにテレビ放映されるから、音楽ファンにはすでにお馴染みだろう。このコンサートの楽しさ、素晴らしさを伝えるために、私が初めてヴァルトビューネを体験した頃の話をしてみたい。

6月末の公演当日、ベルリン近郊の最寄り駅のホームに降り立つと、大きなランチボックスを抱えた家族連れやカップルの姿が目立ち、すでにピクニックコンサートの雰囲気だ。大勢の人の流れに沿って遊歩道を歩いて行くときから、この野外コンサートの幕は開けていると言えるのかもしれない。

入口で荷物チェックを受けてから中に入り、なだらかな坂を下って行くと、白いとんがり屋根が特徴的なあの劇場が見えてきた。最上段の列には食べ物やビールの屋台が並び、開演前から賑わう。この最上段から谷の底の舞台までは30メートルもの高低差があり、眼下を見るとなかなかのスリルだ。

各ブロックは自由席のため、席を確保するために早くから来ている人が多い。パンやチーズ、果物などをつまみながら、誰もがピクニックを楽しんでいる。やがてベルリン・フィルのメンバーが舞台に現れると、彼らの掛け声によって観客ウェイブが始まり、幸福な空気が伝染する。

当たり前のことかもしれないが、演奏が始まると客席は突然静かになる。時々子どもの泣き声が聞こえてくることもあるけれど、2万人以上の聴衆が音楽に耳を傾けている情景は感動的だ。しばしば鳥のさえずりが響き渡る。そのきれいな鳴き声が音楽に絶妙に寄り添うこともあり、まさに森の音楽会だと思った。

20時過ぎに始まったコンサートが進むにつれて、空の色合いは刻々と変わってゆく。ドイツの夏至の頃の抜けるような空の色合いの美しさは、形容するのが難しいほど。このような空のもとで聴いた、グスターボ・ドゥダメルが初登場した2008年のラテンアメリカ音楽の夕べは、私にとって特に忘れられない回のひとつだ。

コンサート後半で日が沈みゆき、客席に少しずつキャンドルが灯されるようになると、魔法を見ているようでうっとりする。会場の雰囲気が最高潮に盛り上がったところで、恒例のアンコールとして演奏されるのが《ベルリンの風》。ベルリン出身の作曲家パウル・リンケが1904年に作曲したオペレッタ《ルナ夫人》からのナンバーだ。このマーチが鳴り響くと聴衆はどっと湧き、手拍子と口笛が森の谷に響き渡る。毎回心から来てよかったと思える、最高に楽しい瞬間だ。

このヴァルトビューネ・コンサートが2025年7月、日本にやってくる。ベルリン・フィルのシンボルである3つの五角形は「人間－空間－音楽」を表しているが、このオーケストラの最高の技術と洗練、ドゥダメルが持ち込む南米の熱い音楽、そして富士山を背景にした自然空間がどのように混ざり合うのか、想像しただけでワクワクしてしまう。来場される皆さん、どうぞ手拍子と口笛のご用意を！